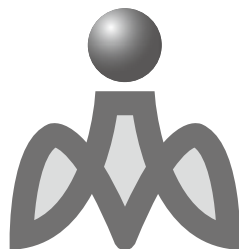


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成26年4月～6月実績〕
〔平成26年7月～9月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目でみる業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目でみる業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目でみる業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目でみる業況	12

【Ⅰ】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第1四半期 平成26年4月～6月期 「調査時点：平成26年6月1日」

3. 調 査 方 法

県下の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービス業	計
都 留 市	3	2	3	4	12
山 梨 市	1	2	2	3	8
大 月 市	2	1	3	2	8
韭 崎 市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北 杜 市	4	2	5	4	15
甲 斐 市	4	3	5	2	14
笛 吹 市	3	2	4	6	15
上 野 原 市	2	1	2	2	7
甲 州 市	3	1	2	3	9
中 央 市	2	1	2	1	6
市 川 三 郷 町	2	1	1	2	6
身 延 町	1	1	2	2	6
南 部 町	1	0	1	1	3
富 土 川 町	1	1	1	2	5
昭 和 町	1	1	3	3	8
西 桂 町	0	0	1	1	2
南 都 留 中 部	1	1	2	2	6
河 口 湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

5. そ の 他

①本報告書のD Iとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

②次頁【Ⅱ】1. 産業全体の業況概観・・・については、商工会調査企業ばかりでなく、他の本県経済団体調査企業（卸売業を含む）を含んだ286企業の調査結果である。

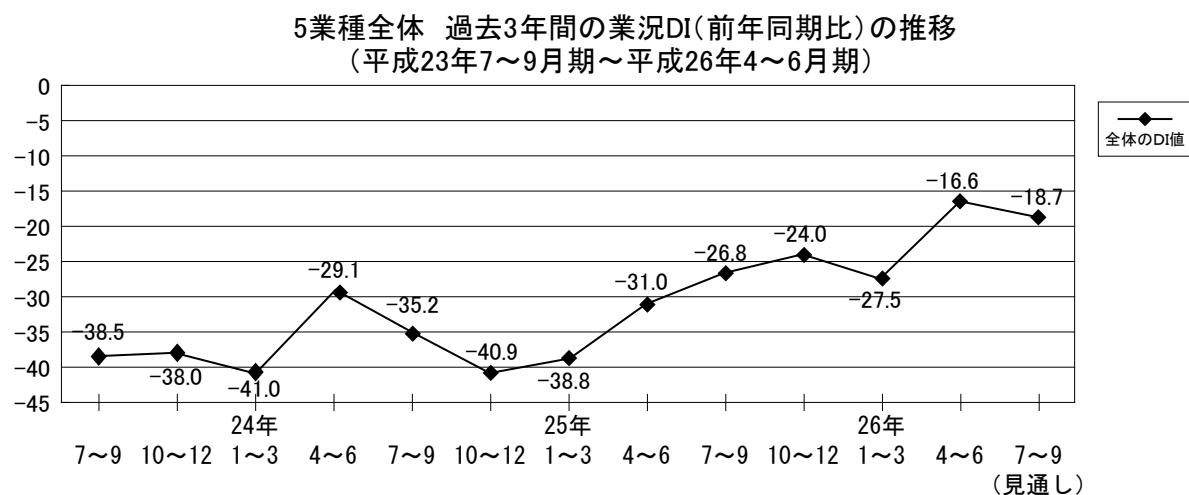
【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断DI、及び、産業別の業況判断DIについてみる。

まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断DIである。業況判断DIは、前期の▲27.5から今期は▲16.6（+10.9）へ大幅に改善している。

ただし、来期の見通しは、▲18.7とやや悪化する見通しとなっている。



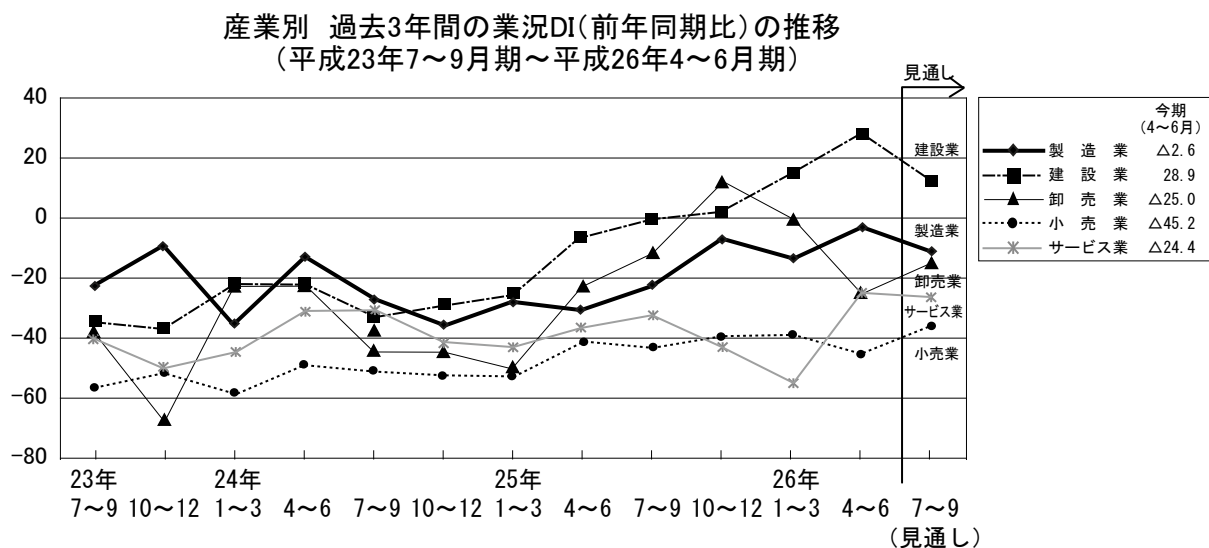
つぎに、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断DIである。

製造業、建設業、サービス業において改善している一方、卸売業、小売業において悪化している。

その内訳は、製造業が前期の▲13.0から今期は▲2.6（+10.4）へ、建設業が前期の15.4から今期は28.9（+13.5）へ、サービス業が前期の▲54.0から今期は▲24.4（+29.6）へ改善している。

一方、卸売業が前期の0.0から今期は▲25.0（▲25.0）へ、小売業が前期の▲38.3から今期は▲45.2（▲6.9）へ悪化している。

ただし、見通しについては、上記と反対の動き（卸売業、小売業で改善）になっている。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、県内経済団体が調査した286企業の回答に基づく県内全体の業況DIである。

なお、次ページ以降は、商工会が調査した165企業（全て小規模企業）の回答に基づく商工会エリア（甲府市・富士吉田市地域を除く）の業種別景況DI等の詳細である。

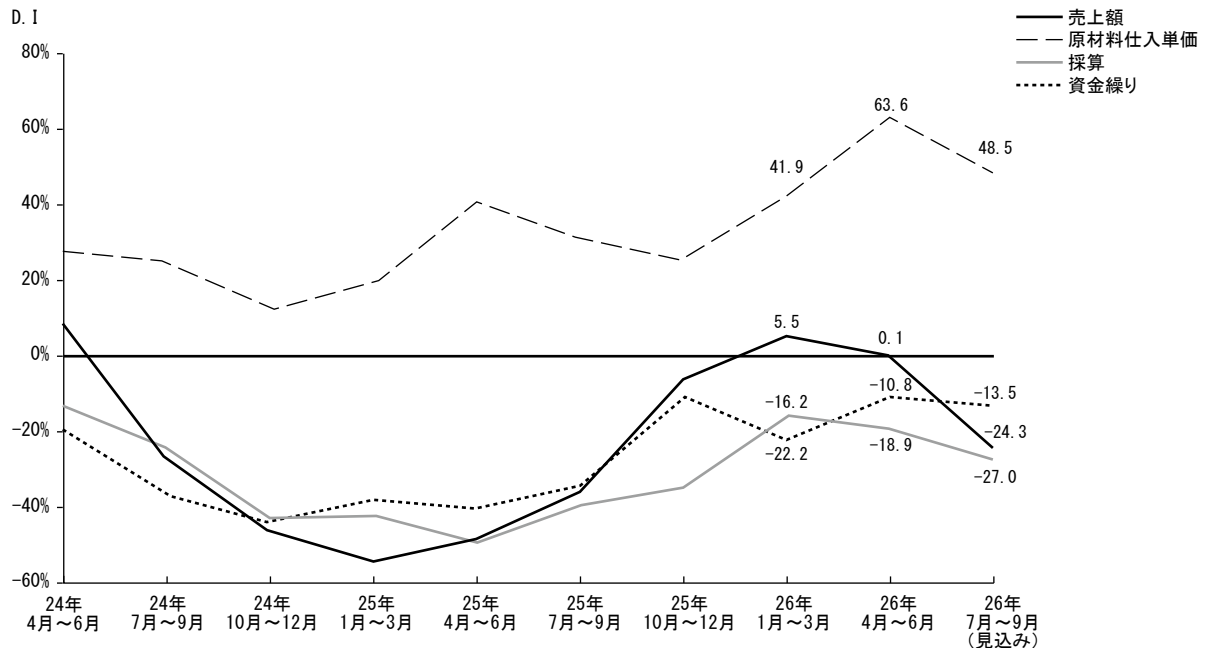
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額DIについては、前期の5.5から今期は0.1(▲5.4)へ悪化している。来期の見通しは、更に悪化して▲24.3となっている。原料仕入単価DIは、前期の41.9から今期は63.6(+21.7)へ上昇(悪化)している。一方、来期の見通しは、48.5へ低下(改善)している。採算DIは、前期の▲16.2から今期は▲18.9(▲2.7)へ悪化している。来期の見通しは、▲27.0と更に悪化している。資金繰りDIは、前期の▲22.2から今期は▲10.8(+11.4)へ改善している。一方、来期の見通しは、▲13.5とやや悪化している。

今期は、資金繰りDIに改善がみられた一方、それ以外は悪化しており、来期についても、原料仕入単価DIを除く全ての項目が悪化する見通しとなっている。

山梨県 製造業 DI 主要景況項目の推移—前年同期比—



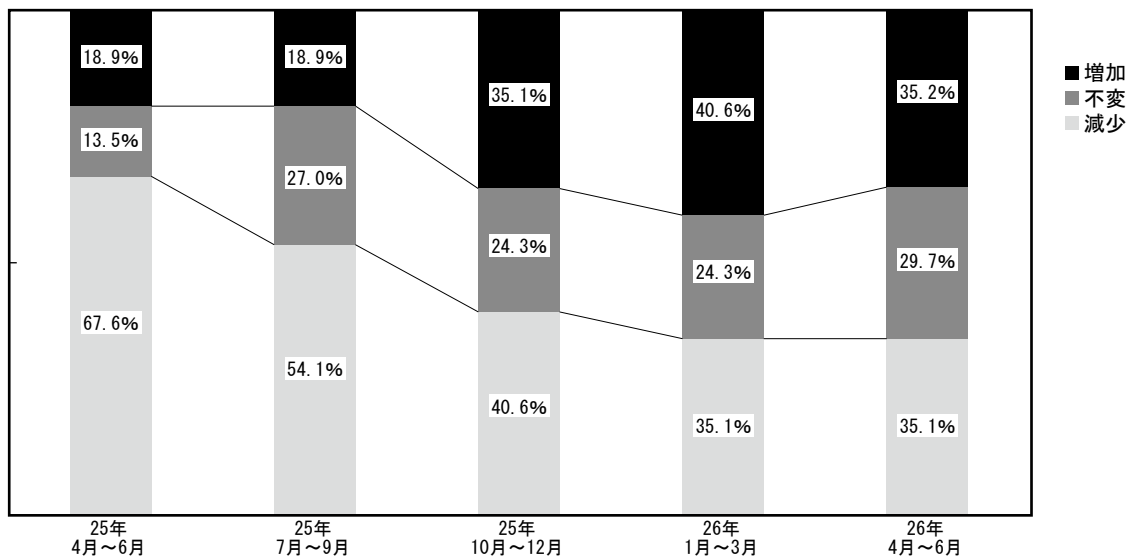
(2) 主な項目で見る業況

① 売上額 (売上額DIの内容 (回答企業数 37社))

「増加」と答えた企業の割合は前期の40.6%(15社)から今期は35.2%(13社)へ減少(▲5.4%)、一方、「不変」は前期の24.3%(9社)から今期は29.7%(11社)へ増加(+5.4%)している。

「減少」は前期と変わらず35.1%(13社)であった。

山梨県 製造業 売上額の状況—前年同期比—



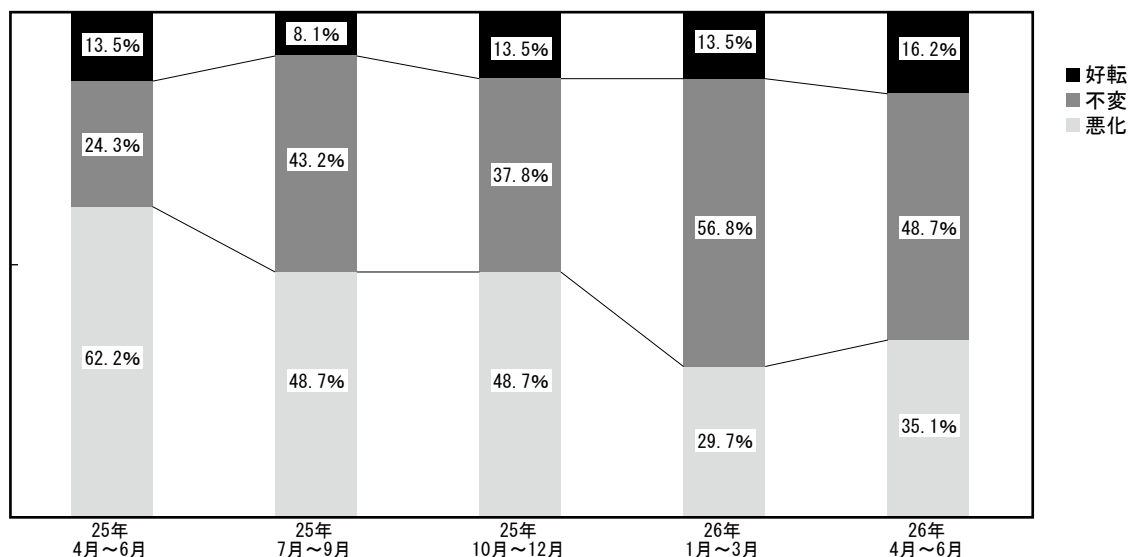
② 採 算（採算 DI の内容（回答企業数 37 社））

※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は前期の 13.5%（5 社）から今期は 16.2%（6 社）へ増加（＋2.7%）、一方、「不変」は、前期の 56.8%（21 社）から今期は 48.7%（18 社）へ減少（▲8.1%）している。

「悪化」については、前期の 29.7%（11 社）から今期は 35.1%（13 社）へ増加（＋5.4%）している。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

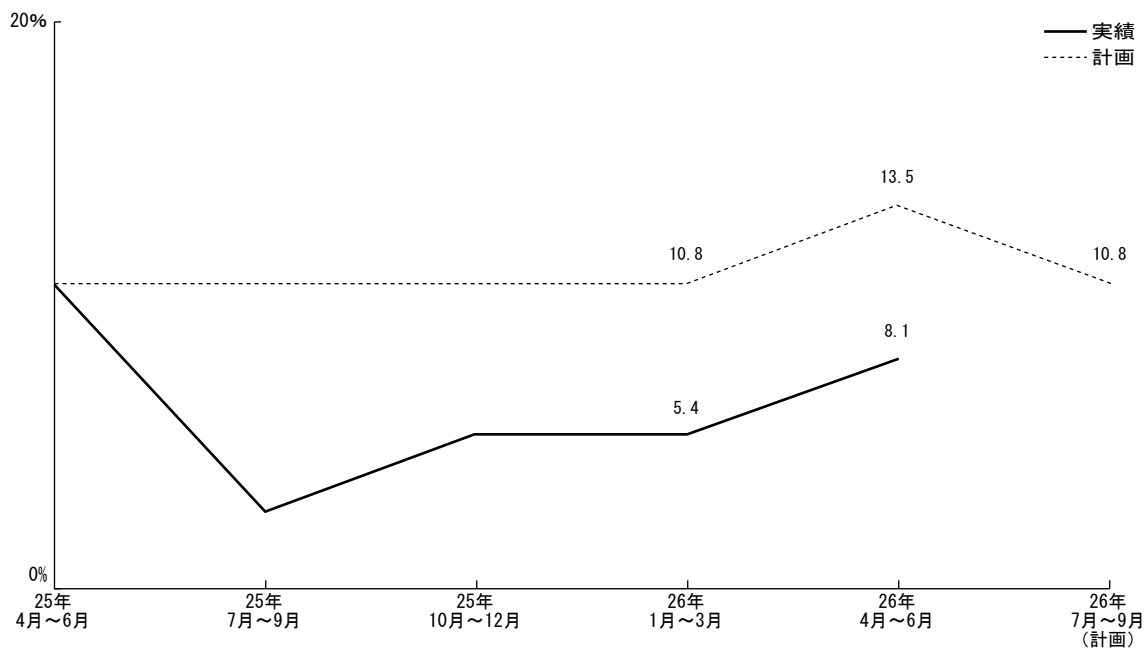


③ 設備投資（直近 1 年間における設備投資の状況（回答企業数 37 社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は 8.1%（3 社）であった（前期比＋2.7%）。その設備投資の内容は「その他」2 件、「OA 機器」1 件であった。

来期の計画については、10.8%（4 社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「工場建物」、「生産設備」、「車両・運搬具」、「付帯施設」、「OA 機器」、「その他」1 件ずつになる。

山梨県 製造業 備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数 32 社）

まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

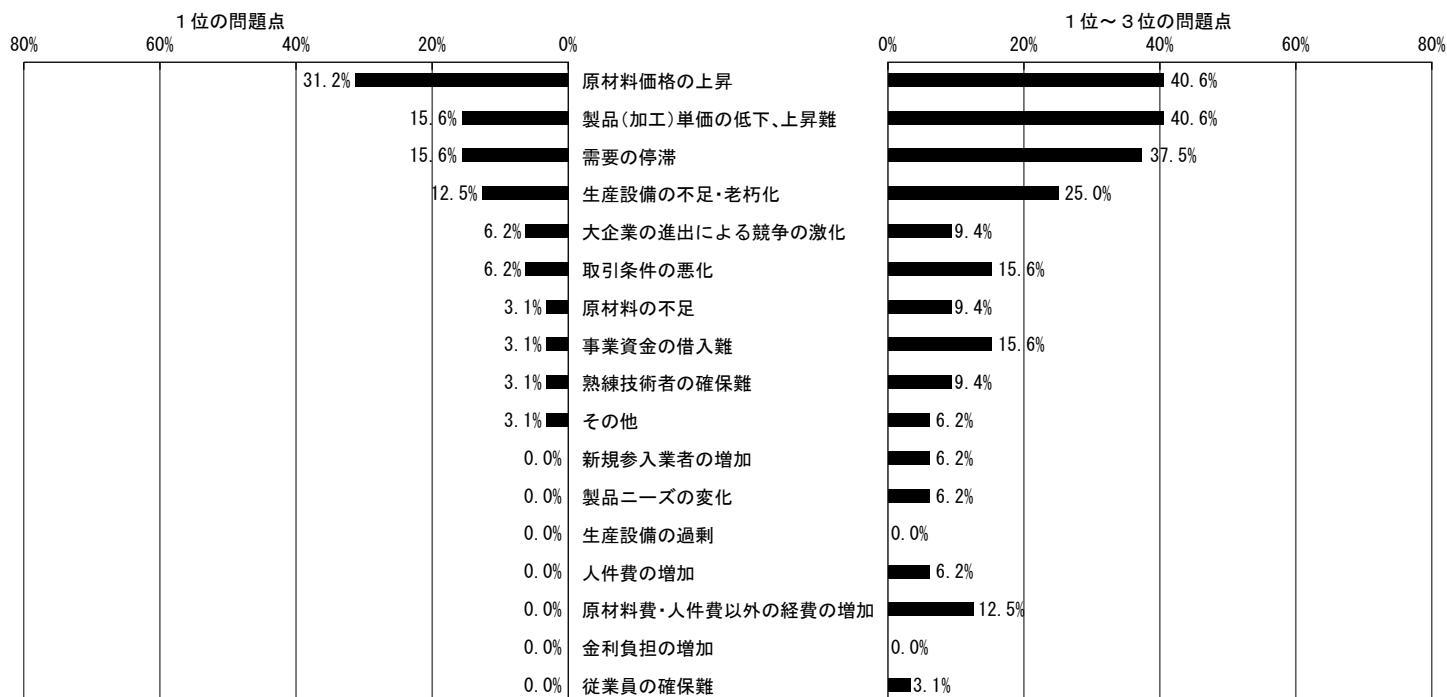
1 番目に多かったのは「原材料価格の上昇（31.2%）」（10 社）であり、2 番目は「製品（加工）単価の低下、上昇難」、「需要の停滞」になる（ともに 15.6%（5 社））。そのあと、「生産設備の不足・老朽化」など、下図のようになる。

つぎに、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは「原材料価格の上昇」、「製品（加工）単価の低下、上昇難」になり（ともに 40.6%（13 社））、「需要の停滞（37.5%）」（12 社）が続く。そのあとは下図のようになる。

「取引条件の悪化」、「事業資金の借入難」（ともに 15.6%（5 社））なども目立つ。

山梨県 製造業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	5	14
飲料・飼料・たばこ製造業	1	3
衣服・その他繊維製品製造業	1	3
印刷・同関連業	2	5
化学工業	2	5
プラスチック製品製造業	4	11
金属製品製造業	2	5
一般機械器具製造業	12	32
電気機械器具製造業	2	5
輸送用機械器具製造業	1	3
その他製造業	5	14
合 計	37	100

従業員規模別

従業員数	雇用形態		常 雇 い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2 人以下	23	62.2	19	51.4		
3 人～5 人以下	6	16.2	5	13.5		
6 人～10 人以下	4	10.8	8	21.6		
11 人～20 人以下	4	10.8	5	13.5		
合 計	37	100	37	100		

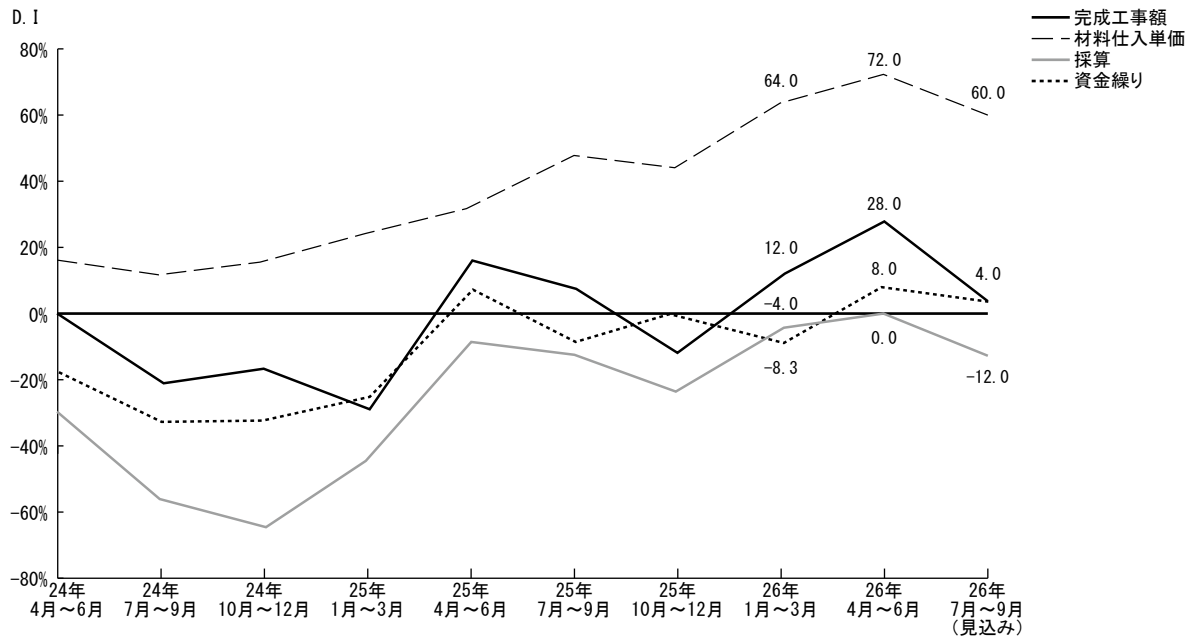
3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iについては、前期の12.0から今期は28.0（+16.0）へ改善している。一方、来期の見通しは4.0へ悪化している。材料仕入単価D Iは、前期の64.0から今期は72.0（+8.0）へ上昇（悪化）している。一方、来期の見通しは、60.0へ低下（改善）している。採算D Iは、前期の▲4.0から今期は0.0（+4.0）へ改善している。一方、来期の見通しは、▲12.0へ悪化している。資金繰りD Iは、前期の▲8.3から今期は8.0（+16.3）へ改善している。一方、来期の見通しは、4.0へ悪化している。

今期は、材料仕入単価D Iを除く全ての項目で改善したものの、来期は材料仕入単価D Iを除く全ての項目で悪化する見通しとなっている。

山梨県 建設業 主要景況項目の推移－前年同期比－



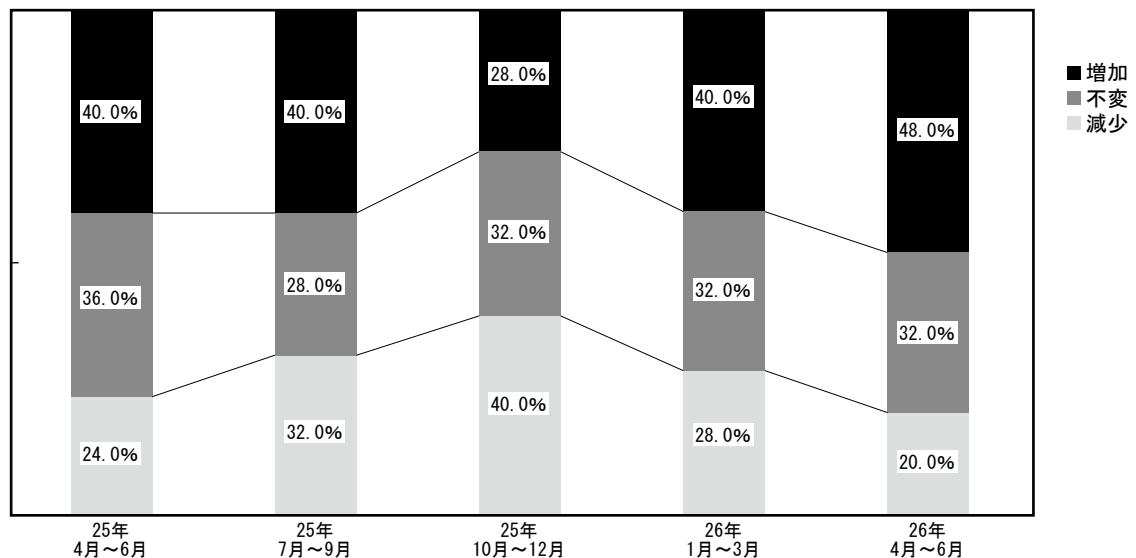
(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（回答企業数 25 社）

「増加」と答えた企業の割合は前期の40.0%（10社）から今期は48.0%（12社）へ増加（+8.0%）している。「不変」は前期と変わらず32.0%（8社）であった。

一方、「減少」は前期の28.0%（7社）から今期は20.0%（5社）へ減少（▲8.0%）している。

山梨県 建設業 完成工事額の状況－前年同期比－

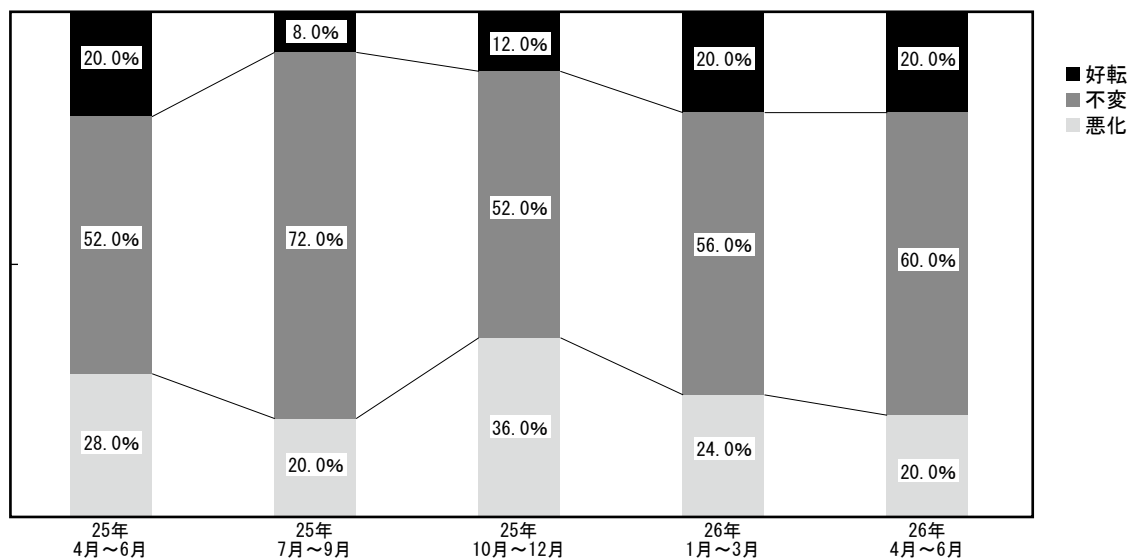


② 採 算（採算 DI の内容（回答企業数 25 社））

「好転」と答えた企業の割合は前期と変わらず 20.0%（5 社）、一方、「不変」は、前期の 56.0%（14 社）から今期は 60.0%（15 社）へ増加（+ 4.0%）している。

「悪化」については、前期の 24.0%（6 社）から今期は 20.0%（5 社）へ減少（▲ 4.0%）している。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

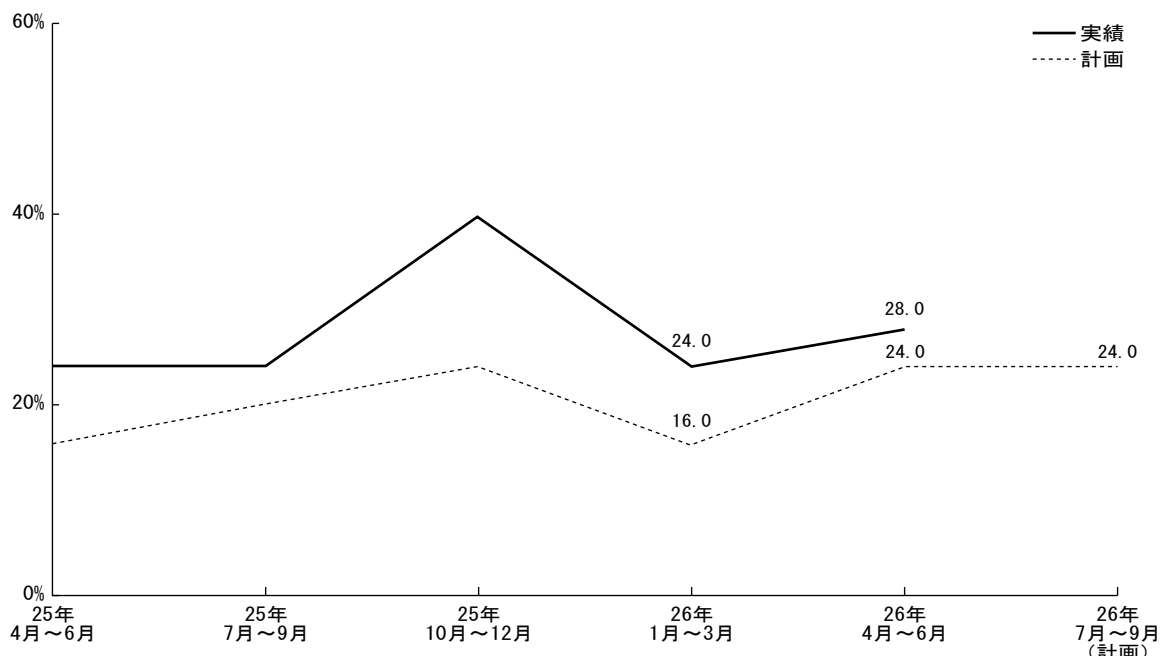


③ 設備投資（直近 1 年間ににおける設備投資の状況（回答企業数 25 社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は 28.0%（7 社）であった（前期比 + 4.0%）。その設備投資の内容は「車両・運搬具」3 件、「OA 機器」2 件、「その他」2 件、「建設機械」、「付帯設備」1 件ずつであった。

来期の計画については、24.0%（6 社）の企業が予定している。その設備投資の内容は「建設機械」3 件、「車両・運搬具」、「その他」2 件ずつ、「土地」、「OA 機器」1 件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数 24 社）

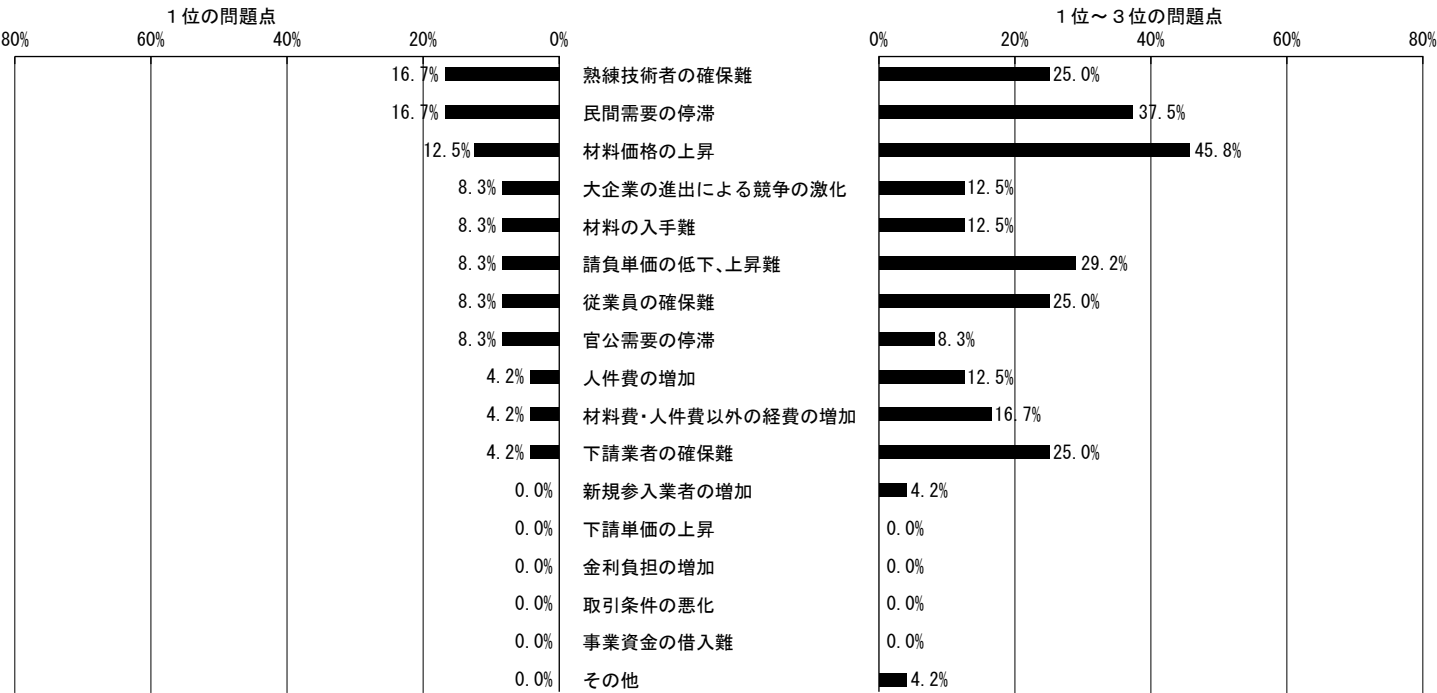
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは「熟練技術者の確保難」、「民間需要の停滞」（ともに、16.7%（4 社））であり、つぎに、「材料価格の上昇（12.5%）」（3 社）となっている。

つぎに、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは「材料価格の上昇（45.8%）」（11 社）であり、「民間需要の停滞（37.5%）」（9 社）や「熟練技術者の確保難（25.0%）」（6 社）を上回っている。また、「請負単価の低下、上昇難（29.2%）」（7 社）が 3 番目に続いている。

山梨県 建設業 経営上の問題点の状況



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
総合工事業	18	72
職別工事業	4	16
設備工事業	3	12
合 計	25	100

従業員規模別

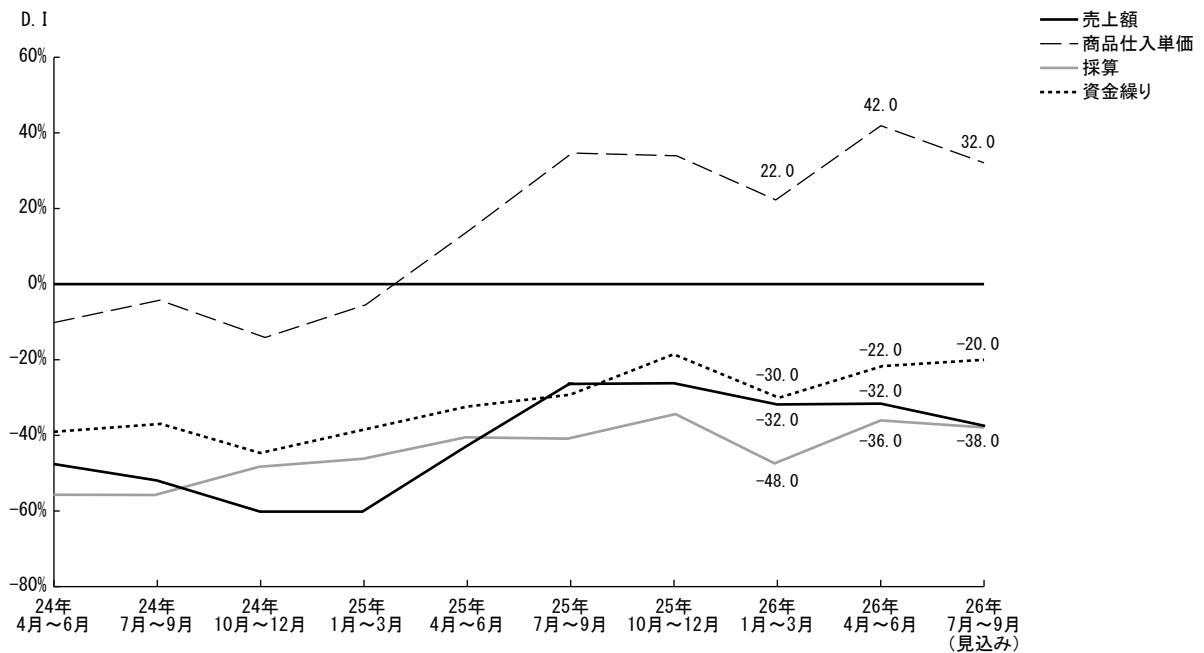
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常 雇	い	企業数	構成比(%)
2 人以下	9	36.0	8	32.0
3 人～5 人以下	7	28.0	8	32.0
6 人～10 人以下	4	16.0	4	16.0
11 人～20 人以下	5	20.0	5	20.0
合 計	25	100	25	100

4. 小 売 業 の 動 向

(1) 景 況 概 観

売上額D Iについては、前期の▲ 32.0 から変わらず▲ 32.0 (± 0) となっている。来期の見通しは、やや悪化して▲ 38.0 となっている。商品仕入単価D Iは、前期の 22.0 から今期は 42.0(+ 20.0)へ上昇(悪化)している。一方、来期の見通しは、32.0へ低下(改善)している。採算D Iは、前期の▲ 48.0 から今期は▲ 36.0 (+ 12.0)へ改善している。来期の見通しは、▲ 38.0 とやや悪化している。資金繰りD Iは、前期の▲ 30.0 から今期は▲ 22.0 (+ 8.0)へ改善している。来期の見通しは、▲ 20.0 と更に改善している。

山梨県 小売業 主要景況項目の推移－前年同期比－

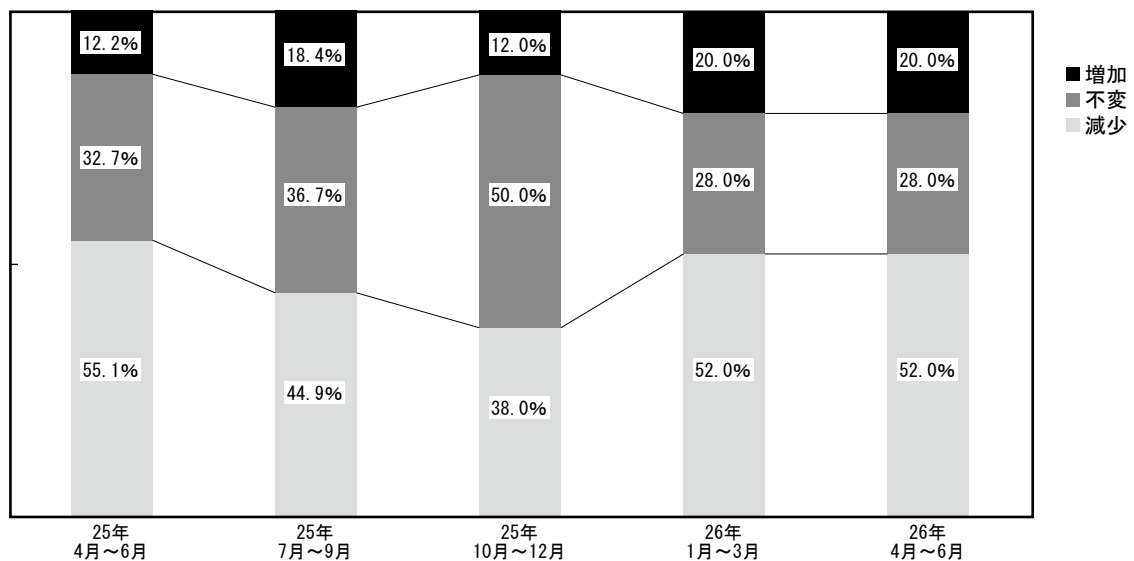


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額 (回答企業数 50 社)

「増加」と答えた企業の割合は前期の 20.0% (10 社) から変わらず 20.0% (10 社) となっている。また、「不変」についても前期の 28.0% (14 社)、「減少」についても前期の 52.0% (26 社) と変わらずとなっている。

山梨県 小売業 売上額の状況－前年同期比－

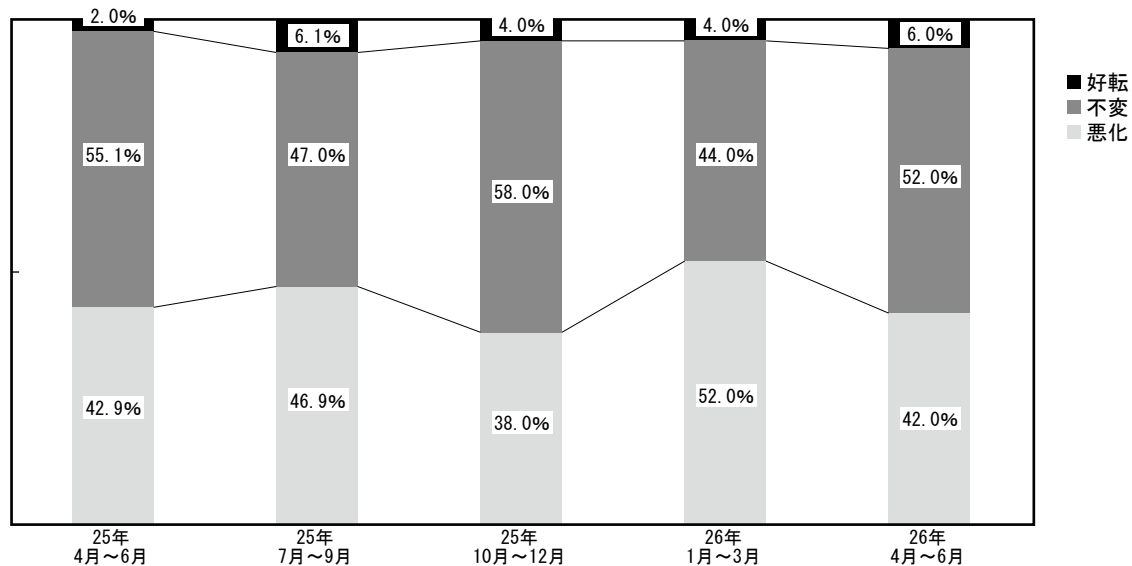


② 採 算（採算 DI の内容（回答企業数 50 社））

「好転」と答えた企業の割合は前期の 4.0%（2 社）から今期は 6.0%（3 社）へ増加（+ 2.0%）、また、「不変」も、前期の 44.0%（22 社）から今期は 52.0%（26 社）へ増加（+ 8.0%）している。

一方、「悪化」については、前期の 52.0%（26 社）から今期は 42.0%（21 社）へ減少している。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

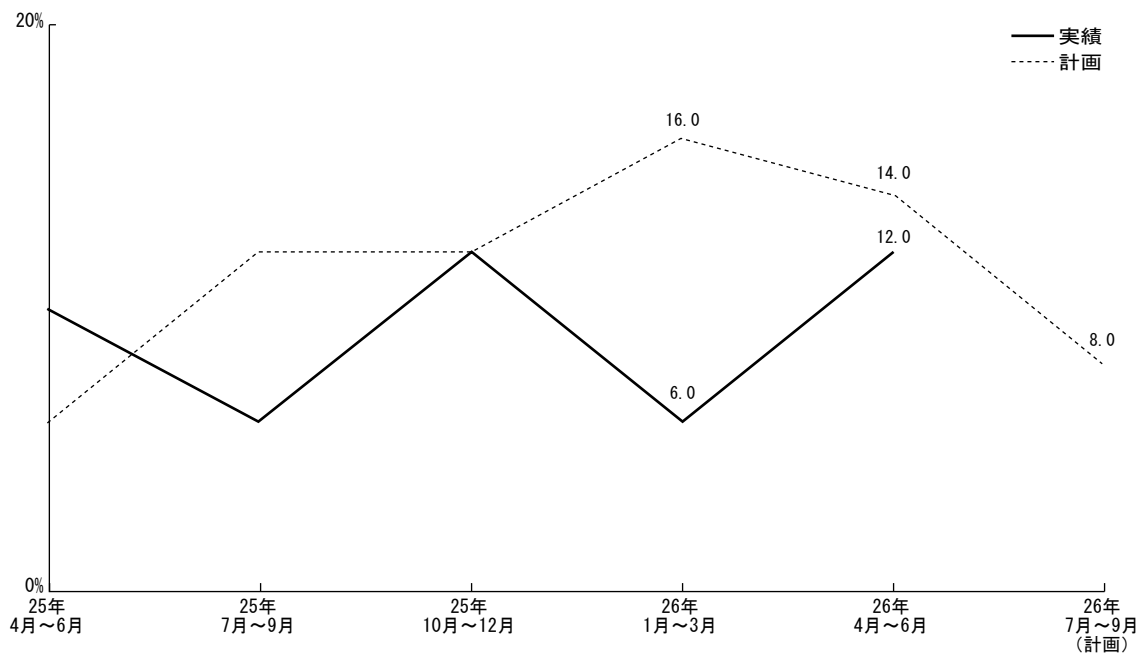


③ 設備投資（直近 1 年間ににおける設備投資の状況（回答企業数 50 社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は 12.0%（6 社）であった（前期比 + 6.0%）。その設備投資の内容は「付帯施設」、「その他」2 件ずつ、「土地」、「店舗」、「販売施設」、「車両・運搬具」、「OA 機器」1 件ずつであった。

来期の計画については、8.0%（4 社）の企業が予定している。その設備投資の内容は「車両・運搬具」2 件、「販売施設」、「付帯施設」、「OA 機器」、「その他」1 件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数 48 社）

まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

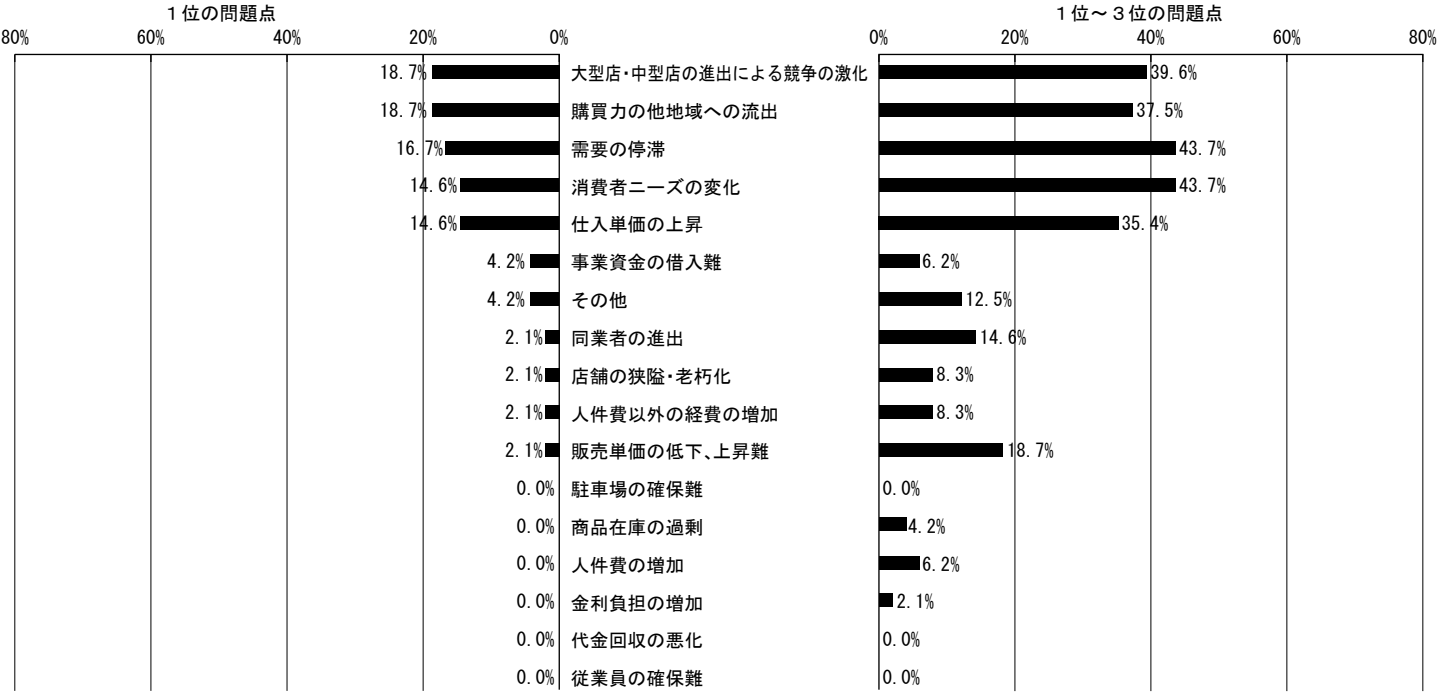
1 番目に多かったのは「大型店・中型店の進出による競争の激化」、「購買力の他地域への流出」（ともに 18.7%（9 社））であり、続いて「需要の停滞（16.7%）」（8 社）となっている。

「消費者ニーズの変化」、「仕入単価の上昇」（ともに、14.6%（7 社））も目立つ。

つぎに、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは「需要の停滞」、「消費者ニーズの変化」であり（ともに 43.7%（21 社））、「大型店・中型店の進出による競争の激化（39.6%）」（19 社）、「購買力の他地域への流出（37.5%）」（18 社）を上回っている。また、「販売単価の低下、上昇難（18.7%）」（9 社）も目立つ。

山梨県 小売業 経営上の問題点の状況



(5) 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0
織物・衣服・身の回り品小売業	11	22
飲食物品小売業	18	36
自動車・自転車小売業	3	6
家具・建具・じゅう器小売業	5	10
その他小売業	13	26
合 計	50	100

従業員規模別

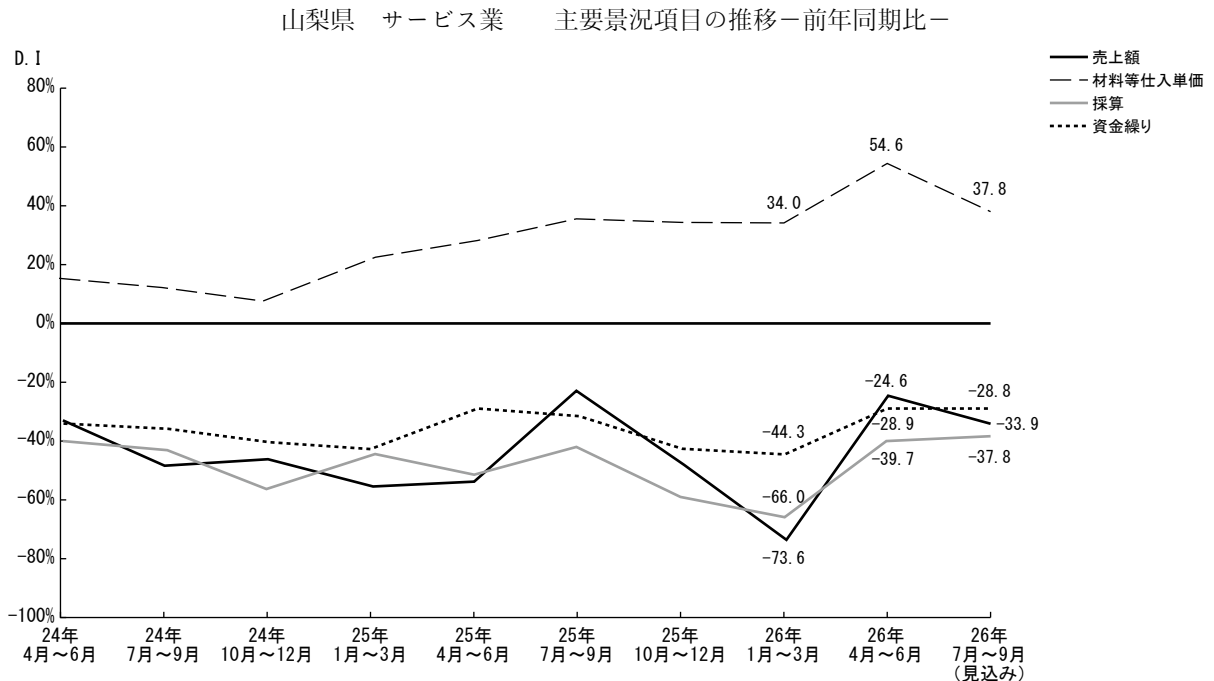
従業員数	常 雇 い		臨時等含む	
	企業数	構成比(%)	企業数	構成比(%)
2 人以下	45	90.0	40	80.0
3 人～5 人以下	5	10.0	10	20.0
6 人～10 人以下	0	0.0	0	0.0
11 人～20 人以下	0	0.0	0	0.0
合 計	50	100	50	100

5. サービス業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iについては、前期の▲73.6から今期は▲24.6(+49.0)へ改善している。一方、来期の見通しは、悪化して▲33.9となっている。材料等仕入単価D Iは、前期の34.0から今期は54.6(+20.6)へ上昇(悪化)している。一方、来期の見通しは、37.8へ低下(改善)している。採算D Iは、前期の▲66.0から今期は▲39.7(+26.3)へ改善している。来期の見通しは、▲37.8へ僅かではあるが改善している。資金繰りD Iは、前期の▲44.3から今期は▲28.9(+15.4)へ改善している。来期の見通しは、▲28.8と横ばいとなっている。

今期は材料等仕入単価D Iを除く全ての項目で改善しており、来期は、売上高DIを除く項目で改善している。

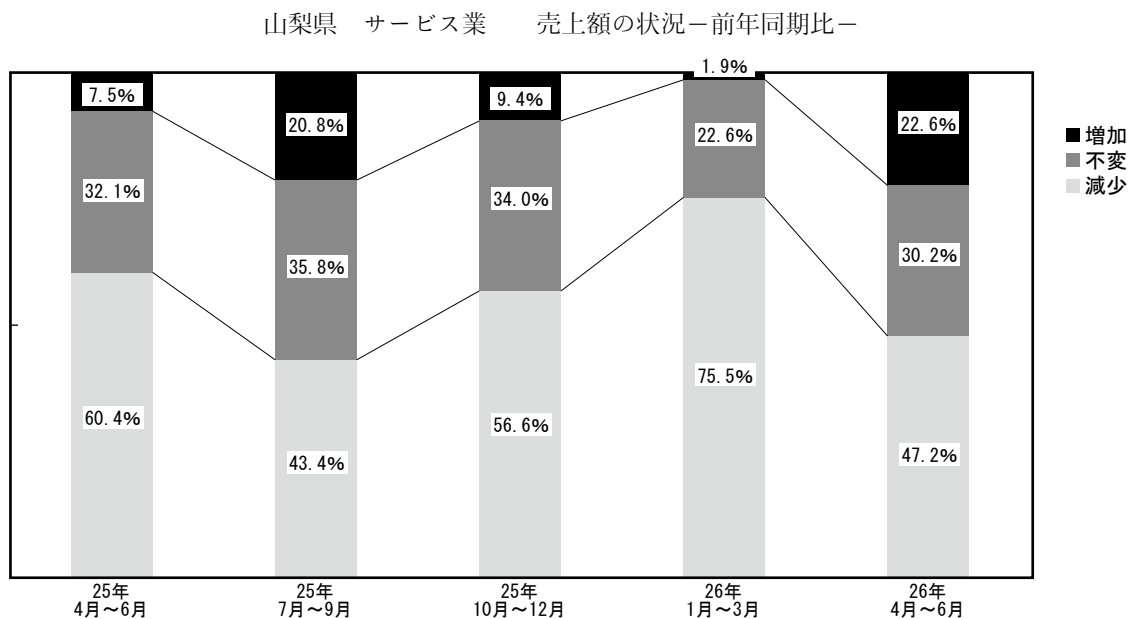


(2) 主な項目で見る業況

① 売上額 (回答企業数 53 社)

「増加」と答えた企業の割合は前期の1.9%(1社)から今期は22.6%(12社)へ増加(+20.7%)、また、「不変」は前期の22.6%(12社)から今期は30.2%(16社)へ増加(+7.6%)している。

一方、「減少」は前期の75.5%から今期は47.2%(25社)となっている。

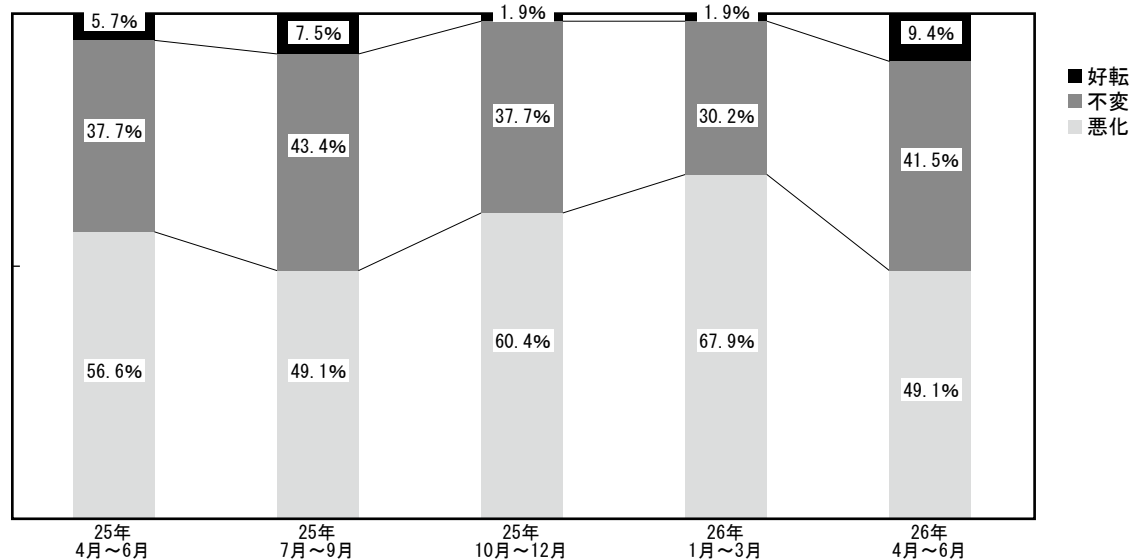


② 採 算（採算DIの内容（回答企業数53社））

「好転」と答えた企業の割合は前期の1.9%（1社）から今期は9.4%（5社）へ増加（＋7.5%）、また、「不変」は、前期の30.2%（16社）から今期は41.5%（22社）へ増加（＋11.3%）している。

一方、「悪化」については、前期の67.9%（36社）から今期は49.1%（26社）へ減少（▲18.8%）している。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

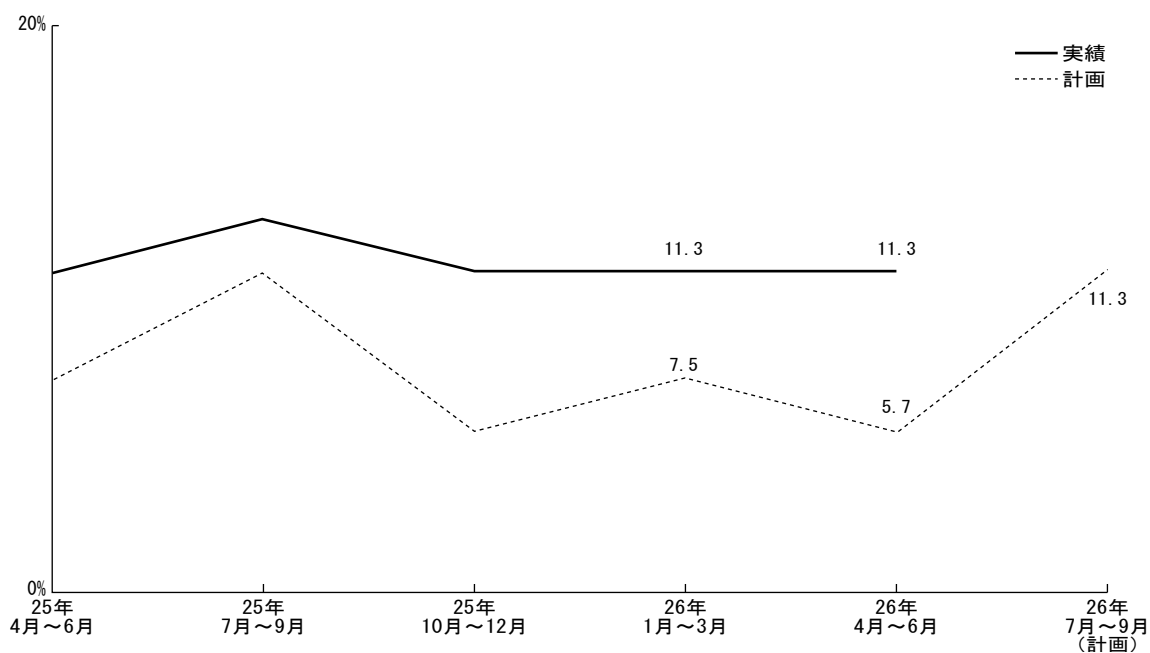


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は11.3%（6社）であった（前期比±0%）。その設備投資の内容は「OA機器」、「サービス」2件ずつ、「建物」、「車両・運搬具」、「付帯施設」1件ずつであった。

来期の計画については、11.3%（6社）の企業が予定している。その設備投資の内容は「OA機器」3件、「建物」2件、「土地」、「付帯施設」1件ずつになる。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数 47 社）

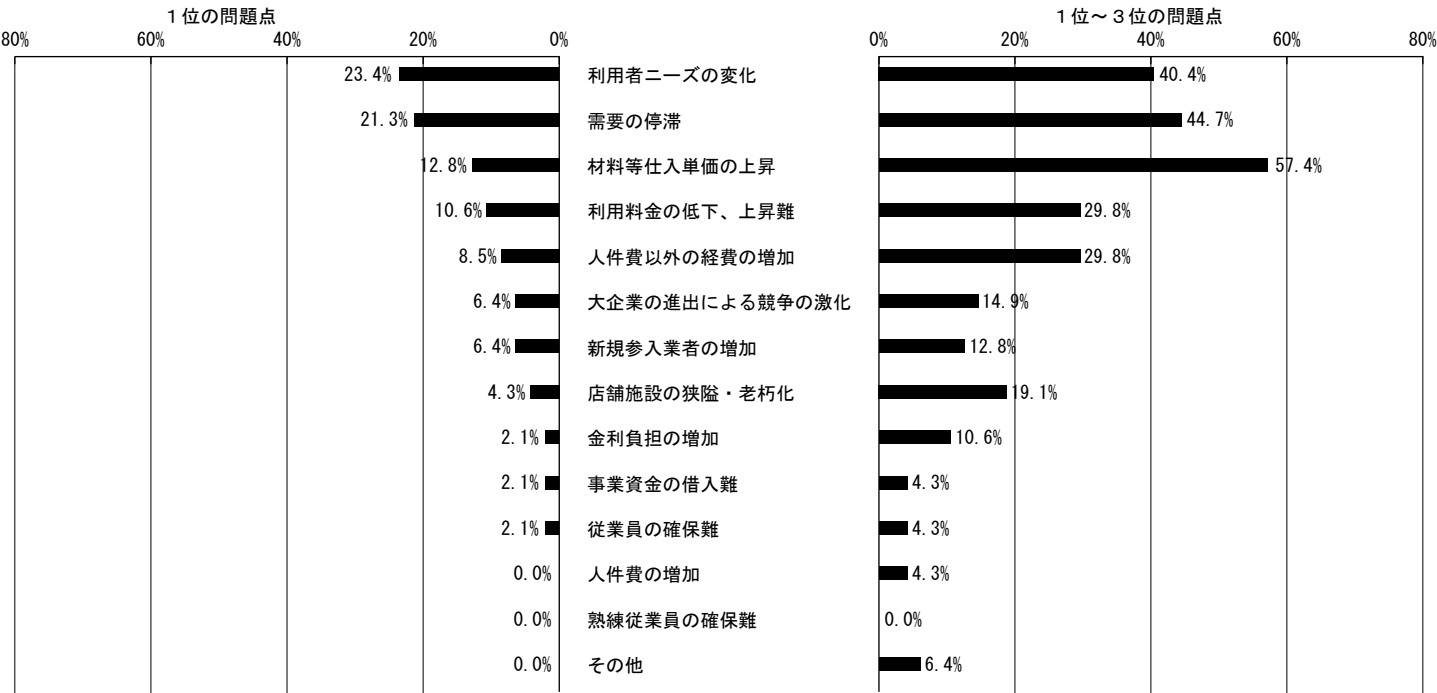
まず、経営上の問題点として、「1 位」に挙げられたものからみていく。

1 番目に多かったのは「利用者ニーズの変化（23.4%）」（11 社）であり、2 番目は「需要の停滞（21.3%）」（10 社）になる。3 番目は「材料等仕入単価の上昇（12.8%）」（6 社）、そのあと、下図のようになる。

つぎに、「1 位～3 位」に挙げられたものをみる。

1 番目に多かったのは「材料等仕入単価の上昇（57.4%）」（27 社）であり、「需要の停滞（44.7%）」（21 社）や「利用者ニーズの変化（40.4%）」（19 社）を上回っている。そのあとは下図のようになる。

山梨県 サービス業 経営上の問題点の状況



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業 種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	36
宿泊業	8	15
運送業	2	4
自動車整備業	3	6
洗濯・理美容業	16	30
その他のサービス業	5	9
合 計	53	100

従業員規模別

従業員数	雇 用 形 態		臨時等含む	
	常 雇	い	企業数	構成比(%)
2 人以下	44	83.0	40	75.5
3 人～5 人以下	9	17.0	13	24.5
6 人～10 人以下	0	0.0	0	0.0
11 人～20 人以下	0	0.0	0	0.0
合 計	53	100	53	100